

施策評価調書

1 施策の概要

(1)	施策名	教育環境の充実／教職員研修・教育相談の充実					
(2)	総合計画の体系	第	4	章	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり		
		第	1	節	学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり		
		第	22	細節	教育環境の充実／教職員研修・教育相談の充実		
(3)	事業費など (単位:千円)	項目\年度(平成)		26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
		事業費(A)		82,201	83,563	89,765	
		従事職員数		2.16 人	2.10 人	2.00 人	
		所要人件費(B)		17,169	17,541	16,340	
		総事業費(A+B)		99,370	101,104	106,105	
		財源内訳	収入	国庫支出金	0	0	0
				府支出金	0	0	0
				その他	314	309	343
			市負担	地方債	0	0	0
				その他	0	0	0
一般財源	99,056			100,795	105,762		

2 評価の指標(施策に係る成果指標)

指標項目		項目\年度(平成)	26年度実績	27年度実績	28年度計画
指標内容	特別支援教育推進事業における巡回相談訪問回数	目標値 (単位:回)	245.00	315.00	315.00
		実績値 (単位:回)	301.00	230.00	/
目標値の積算方法	(週当たりの訪問回数)×(学校授業週数) 7回/週×35週(平成26年度) 9回/週×35週(平成27年度~)	達成度(%)	122.9	73.0	/
指標内容		目標値 (単位:)	0.00	0.00	0.00
		実績値 (単位:)	0.00	0.00	/
目標値の積算方法		達成度(%)	0.0	0.0	/

3 施策の点検(施策を進めるうえでの課題)

不登校やいじめ、虐待など園児・児童・生徒を取り巻く環境は厳しくなっています。この本施策における各事業は子どもたちが安心して学習に取り組める教育環境を整えることに大きく寄与しており、いまや学校園にとって欠かせないものになっています。今後は効率的な事業運用ができるように各事業内容を点検することが必要です。

不登校児童・生徒支援事業については、将来的には光の森・学びの森の活動場所の統合による運用が必要であり、統合に向けての計画策定が必要となっています。また、学校問題解決支援事業については、学校を取り巻く様々な問題の早期解決のため、学校問題解決支援員が学校に対し、指導・助言を行っているところだが、ニーズの増大や多様化に伴い、支援員の増員等の必要があります。

4 施策の評価

次年度の優先順位	施策を構成する事務事業名	室課名	事業番号	市単独事業区分	施策への貢献度	各視点からの評価 (20 → 4) 高 → 低						今後の方向性 (実施計画)
						妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	合計	
1	学校問題解決支援事業	指導室	00892	全部	大	20	16	16	18	20	90	継続
2	不登校児童・生徒支援事業	教育センター	00921	全部	大	18	20	16	18	18	90	継続
3	特別支援教育推進事業	教育センター	00922	全部	大	20	20	16	18	18	92	継続
4	来所・電話相談事業	教育センター	00919	全部	大	18	20	18	18	18	92	継続
5	出張教育相談事業	教育センター	00920	全部	大	18	20	20	18	16	92	継続
6											0	
7											0	
8											0	
9											0	
10											0	
11											0	
12											0	
13											0	
14											0	
優先順位をつけるにあたっての考え方		学校問題の早期解決を図ることは、地域・保護者から信頼される学校の構築、児童生徒の学校生活の充実につながります。また、学校問題解決支援員による指導・助言により学校自身が適切に解決する力をつけることも安定した学習環境の醸成に必要であり重要度の高い事業であると考えます。										